



# SDGs×ESD レポート Vol.9

ESDは（Education for Sustainable Development）略称で「未来を変える人づくり」を意味します。

発行：NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）

日本が1951年にユネスコに加盟して今年で70周年。私たちは70年前には想定されなかった政治、社会、環境、人権、新型コロナウイルスのパンデミック等、グローバル化がもたらす様々な問題に直面しています。このような時代にESDが果たすべき役割について、5月に開催される「ESDに関するユネスコ世界会議」の動向や、新国内実施計画に基づく政府の方針を注視しつつ、改めて会員の皆様と議論し、今後の道筋を明確にしていきたいと考えています。



## 持続可能な社会のための人材育成

毎月第4土曜日 13:00～15:00 開催

第3回、第4回、第5回を  
報告します！

★各回オンラインセミナーの発表資料は当団体ウェブサイトからダウンロードが可能です★



第3回 1月23日（土） 参加者 39名

### 「企業とESD/SDGs」

ESD-J理事 福井 光彦

ゲストスピーカーとして企業2社をお招きし、企業がESD/SDGsについて取り組む意義について具体的な取り組み事例から考えました。

#### ■株式会社SouGo代表取締役社長 北條 裕子様

昭和24年に印刷会社として創業し、38年前に循環型農業を実践する有機ジャーマンカモミールを使用した医薬部外品・化粧品ブランド「華密恋（かみつれん）」の製造・販売の事業を始めました。長野に日本初のビオホテルジャパン認証を受けた宿泊施設「八寿恵荘（やすえそう）」を経営、建築素材、100%再生可能エネルギーの活用、提供する食事・アクティビティ等、あらゆる視点から環境に配慮して運営しています。SDGsに関する社員研修や勉強会を通じて、社員の意識向上に努め「人々の健康と環境配慮に取り組む」会社を目指しています。

#### ■損害保険ジャパン株式会社CSR室長 越川 志穂様

1992年のリオの「地球サミット」を契機に経営課題として環境に取り組むようになり、同年に地球環境室を設置。人材育成を意識したNPO/NGOをはじめとする様々なステイクホルダーとの協働を開始しました。そのうちの一つ、1993年に開始した市民のための環境公開講座は、累計26,000人以上が参加しています（2020年時点）。本業の保険事業においても、社員の発案で食品ロス削減に寄与する保険を考案や保険加入者に対して証券・約款のペーパーレス化や事故時自動

車の修理にリサイクル部品を利用する選択肢を用意し、削減コストの一部を原資にNPO/NGOとの協働プロジェクトを展開するなど、お客様の選択にESDの要素を組み込み、行動変革を促す工夫をしています。

セミナーを終了しての感想は、SouGo様の活動は、現社長の父である創業者の北条晴久氏の思いを活動や商品、サービスに具現化しています。また損害保険ジャパン様も、環境問題への取り組みをスタートさせた元社長の後藤康男氏の理念を引き継ぎ、活動を展開するなど、事業を始められた方の「思い」が原点にあると理解しました。

そうした「思い」を原点に、それぞれ多様な活動を展開しておりますが、工夫を凝らし、また苦勞している点は、いかにしてその「思い」を職員やステイクホルダーに伝え、活動に参画して頂くかという点にあると感じました。

リスクとチャンスの両面から考えSDGsに企業が取り組むことは、今や必須のことと言えますが、その取り組みを形だけに終わらせないためには、一人一人の職員やステイクホルダーがその企業の理念を共有し、「よりよい社会のために」自分は何ができるかを考えることにあると思います。そうした企業理念の共有と具体的活動への参画を促すものこそ、企業のESDであろうと考えます。



第4回 2月27日（土） 参加者 34名

### 「地域づくりのESD/SDGs」

ESD-J理事 池田 満之

まず小金澤 孝昭理事より、東北地方で実践している4つの地域づくり①平泉（世界遺産学習を学校・社会教育と連動させた地域づくり）、②気仙沼（復興、海洋教育を円卓会議方式で地域と学校が連携した地域づくり）、③大崎市（世界農業遺産を活用した持続可能な地域農業づくり）、④只見町（ユネスコエコパーク、ユネスコスクールを活用した只見学、

山村留学、産業おこしによる地域づくり）を紹介していただきました。事例を通じて、求心力のある地域を動かすためのテーマ設定が大切であることが強調されました。そして、子どもが地元の人と交流しながら地域の良さ学ぶことで、地域の大人への良い影響が生まれ、ESDに取り組むこと自体が地域の活性化につながる事が紹介されました。

次に大塚 明さんより、学校教育におけるESDの推進がどのように地域づくりに繋がるのかを天城中学校のESD実践と人材育成の実践、伊豆半島ジオパークにおけるジオパーク教育を基にお話しいただきました。ESDの視点で学習を整理し直すこと

で、地域への愛着や自尊感情を高める学習を実践することが出来、生徒たちが地域の課題から未来像を描き、自分たちにできることを考え、行政に提言する活動等が紹介されました。そして卒業生の中から、天城中学校の学びを通じて「将来地域に貢献できる仕事がしたい」との想いを描き、地元の公務員になった生徒が紹介され、中学校でのESDの学びが将来の進路にも影響していることが伺えました。

今回のセミナーは、学校にフォーカスを当てて学校と地域の連携による地域づくりのための人材育成を考えましたが、ここでは各ステークホルダー（関係者）をつなぐコーディネーターの存在、役割がいかに重要であるかが強調されました。小金澤理事からは、教育委員会と町内会（PTA区の組織）がいかに学校と地域のつなぎ役として要となるかを、大塚さんからは、つなぎ役として学校長を核とした校内推進体制が構築され、明確な目的やビジョンを持って、地域の中で探究学習が深められていくことが有効かを、具体的な事例や体験からお話し

いただきました。こうした役割を担えるコーディネーターをいかに育成または発掘して活かしていくか、一過性ではなく持続的に取り組んでいける体制や仕組みをどのように構築していくべきかを地域の中でよく話し合い、適宜、外部からの人材「よそ者」の力をうまく取り入れて、それぞれの地域の実状に即した学校と地域の連携による地域づくりと、そのための人材育成に取り組んでいきたいと強く感じられたセミナーでした。



**第5回 3月27日（土） 参加者 36名**  
**「教育現場におけるESD/SDGs」**  
**ESD-J理事 鳥屋尾 健**

■ **子どもからの学びを地域づくりのカへ**  
 ～北海道浦幌町の「うらほろスタイル」～

中田 和彦理事より、子どもを主役に据え、子どもたちが将来も住み続けたいと思える町づくりを目指す「うらほろスタイル」を紹介していただきました。高校が閉校になったことをきっかけに、少子高齢化問題に向き合うためにこの取り組みが開始されました。特徴としては、小中学校の9年間で徹底して地域を学び、地域への誇りと愛着を育み、課題に向き合い、子ども達が町の活性化案を自ら考えます。子ども達の町を良くしたいという思い・アイデアは、町の職員や賛同した大人たちが協力して実現させます。取り組み開始から10年間で17件の提案が実現しました。その一つ、町の花・ハマナスを使った化粧品開発では雇用につながる新しい産業を興すことで子ども達が将来、町に住み続けられる環境の整備を目指しています。

■ **地域の持続可能性に向き合う学校ESD**  
 ～長野県飯田市遠山郷の事例～

小玉 敏也理事より、遠山郷の「廃校」問題と付随する地域の課題に取り組む実践についてお話しいただきました。2018年から立教大学ESD研究所がアドバイザーとなり、学校、地域、公民館が一体となって地域を持続可能にするための様々な活動を行っています。例えば、外部インプットとしては教員・保育士の研修、講演会の実施、更に首都圏・長野県の大学生による小中高校生対象の学習塾、川遊び、地元の食文化体験を開催しました。また、小規模特認校の先進的な教育活動、ICTの活用、ユニークなカリキュラム、伝統的なお祭りの実施等

を外部へ発信し、教育移住を促進しました。「にぎやかし隊」を発足し、地域の魅力の発見・発信と交流人口を増やすための様々な事業の取り組みが始まっています。遠山郷フォーラムでは、1ターンした20代の若者が地域の魅力を語り、中学生がそれに感化されて「中学生と地域住民が未来を語り合う会」を開催するなど、地域の将来を担う若者が積極的に動き出しています。

■ **ファシリテーターのコメント**

2つの事例報告には、共通点があります。1つは、「子どもへの教育」が中心となり、子どもと「対等」に大人が子どもの提案・発案を受け止め、地域全体の動きにつながっていること。もう1つは、少子高齢化という地域課題が深刻で町の存続のための、地域住民の「本気度」が行政・地域住民共に強く感じられることです。

子どもは言うてみれば「地域の未来」そのものです。そしてその子どもが地域の未来について、地域との関わりの中で学び、感じ考えたことを、大人も「対等」に受け止めている、フラットな関係性がそこにあります。「現場にこそ答えがある」と言われますが、地域の現場にこそESDの本質を体現する動きがあり、光があることを感じさせてくれる事例で、その刺激をセミナー参加者それぞれが自分の中で消化していくそんな機会となりました。



**2021年度も ESD-J 主催オンラインセミナーシリーズを毎月第4土曜日 13:00-15:00 に開催します！**

**全体テーマ：「SDGs を見据えた人づくり～ESD for 2030～」 コロナ時代の持続可能な社会をどう創るか**

- 第1回 キックオフミーティング 講師：ESD-J理事 小金澤 孝昭、鈴木 克徳、福井 光彦、鳥屋尾 健
- ◆ 日時：2021年4月24日（土）13:00-15:00 詳細：<http://www.esd-j.org/news/5809>

**お申込みお待ちしております！**





# 第9回ESDカフェTokyo 「絶滅危惧種シリーズ」ヘラシギの旅 ～長旅の休憩所日本のおもてなしは、いかに?～



**講師：柏木 実さん**  
2005年より東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワーク(EAAFP)のヘラシギ特別部会日本代表  
2008年より世界湿地ネットワーク(WWN)アジア地域代表

2021年3月21日に第9回ESDカフェTokyoを開催し、一般20名、親と一緒に参加した子ども(未就学児2名、小学生5名)の合計27名が参加しました。これまでも、スナドリネコ、ニホンヤマネといった絶滅危惧種等の動物をテーマにESDカフェを開催してきましたが、今回はIUCNレッドリストのCR(近絶滅種)に指定されている危機的な状況にある『ヘラシギ』をテーマにしました。

今回講師にお招きした柏木実さんは長い間ヘラシギの保全に関わり、渡り鳥の国際組織(EAAFPヘラシギタスクフォース)の日本代表を務めています。世界中で残り100つ

がいりのヘラシギを守るために、ヘラシギの生態や課題のお話を聞き、日本に住む私たちが出来る事は何かを意見交換しました。

## ■ヘラシギとは、どんな生きものなのか■

鳩のように同じ場所で一生を過ごす鳥と異なり、ヘラシギは食べ物の豊かな場所を求めて季節ごとに南北に10,000～15,000kmを移動する「わたり鳥」です。スズメほどの大きさで、なんと言ってもその特徴はスプーンのような形のクチバシにあります。

ロシアのチュコトだけに巣を作り、1つがい平均4個の卵を産みます。卵も雛も保護色で地面の草に紛れるとすぐ近くに居ても見分けがつかないほどです。それでもキツネ、トウゾクカモメ、ジリス、カラスなどの天敵に襲われてしまいます。1975年には2500つがいだった個体数は減少し続け、2013年には98つがいになってしまいました。



## ■紙芝居その①「ヘラシギくんの旅」(後藤 奈穂美作) ■

ヘラシギの雛が誕生してから越冬地のバングラデシュへ辿り着くまでの旅を描いています。小さい鳥なので、途中で休憩をしないと体力が持ちません。中継地—日本、韓国、中国の干潟に立ち寄りながら越冬地へ向かいます。旅の途中、様々な危険と遭遇する様子をリアルに描写しました。

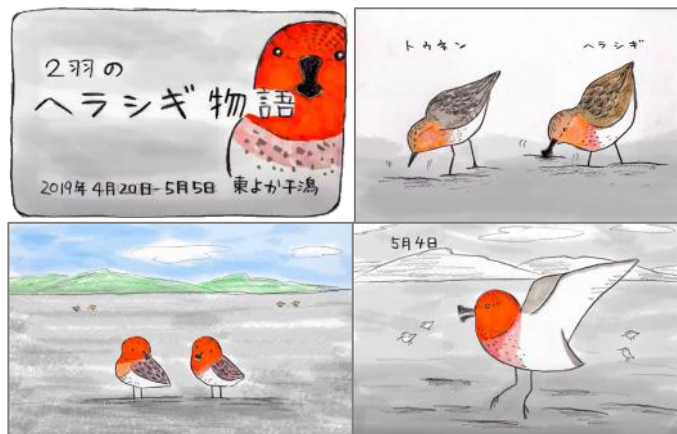


## ■グループワーク■

どうしたらヘラシギを私たちが守れるのかを「A. 中継地の確保、B. 干潟を開発から守る、C. 汚染物質から守る」の3つの視点で班に分かれて話し合い、結果を発表しました。それを受けて、講師の柏木さんより、実際に取り組まれている保全活動を紹介していただきました。中でも孵卵器を使って雛をある程度の大きさまで育ててから放鳥するスタートアップ・プログラムは、個体数の底上げに貢献しているとのことでした。

## ■紙芝居その②「2羽のヘラシギ物語」(中村 さやか作) ■

最後に、越冬地からロシアに戻る旅を描いた紙芝居を上映しました。個体数が少ないために同じ種の仲間となかなか出会えず、心細いヘラシギが、有明海の東与賀の干潟でパートナーと出会い仲良く営巣地へ戻っていく様子が描かれています。



## ■感想と反響■

参加者の半数はヘラシギをこれまで知らなかったため講師のお話を新鮮な気持ちで楽しく聞けたことが伺えました。また、オンラインでの紙芝居は、初めての試みでしたが、子どもにも分かりやすかった、もっと長く見ていたかったと言う感想をいただきました。また、このワークショップを通じて今後自分ができることとして、省エネ・温暖化防止を心がけたい(13名)、海岸や湿地を気にしてみることから始めたい(11名)、ゴミ拾いから始めたい(9名)、バードウォッチングから始めたい(6名)といった次のステップに繋がる回答が参加者から得られました。

講師の発表資料、紙芝居はオンライン上で公開しています。  
URL: <http://www.esd-j.org/news/events/5768>





## 新型コロナ禍での世界のESDの動き

～第12回世界RCE会議開催への準備としてのweb会議に焦点をあてて～

国際事業担当理事 三宅 博之

人類は新型コロナウィルスに翻弄され、その収束に向けて挑戦を続けていますが、終息の兆しはまだ見えません。ESDの世界では、グローバリゼーションが進む中、実際に現地を訪問し交流することで活動を深めてきましたが、それが不可能となり代わりに現れたのがweb会議(webinar)です。

国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)の下、世界各国にある約180のESDの促進拠点・地域=RCE(Regional Centre of Expertise on ESD)を対象に毎年、世界RCE会議が開催されています。第12回目の2021年度の会議は11月の開催が予定されていますが詳細は未発表です。しかし、同会議の準備として2回のweb会議が設けられています(第1回2021年2月4日、第2回6月8日)。第1回はRCEスコットランドとグローバルRCEサービスセンターがホストを務めました。UNU-

IAS発行のRCE-Bulletinを基に簡単に報告します。

テーマは『RCEグローバルネットワーク2021:SDGs達成に向けて、学習を通しての行動』で、参加者数は120名でした。前半は、ユネスコ本部のビョン・ウォンジュンさん(シニア・プロジェクト・オフィサー、元RCEトンヨン事務局長)が、'Setting the Scene: The UNESCO ESD 2030 Roadmap & the SDGs'との題名で基調講演を行い、その後6人でパネルディスカッションが行われました。議論の中では、ESD事業の中では(マルチ)ステークホルダーと学習者が重要な存在であること、自治体のローカルアジェンダに持続可能な開発目標を反映させること、将来世代(ユース)に焦点を当て、特に小学校レベルではより緑に満ちた未来のためにESDの実践を通して、能力や技術を身に付けさせるようにすることが重要であることを確認しました。ロー

ドマップ内の5つのテーマの検証を行い、RCEは、マルチステークホルダーによる集会的・連携的な取り組み、及びあらゆるレベルの行政機関との関係構築を推進する中心的な役割を果たすことも確認しています。

後半では、野口扶美子さん(UNU-IASサーチ・フロー)が司会を務め、UNU-IASのパク・ジョンウイさん(アカデミック・プログラム・オフィサー)が'Roadmap for the RCE Community 2021-2030'の概略を説明し、その中では具体的な取り組みと測定可能なゴールの設定が重要であることが強調されました。それを受けて世界4地域の代表RCEが課題と好実践事例を報告し、どうすればRCEは2030年に向けてその努力と成長を更に拡大することができるかが議論されました。これらの議論を基に第2回は、2020年～2030年におけるESDの国際的な実施枠組み「ESD for 2030」との関連でのRCEの役割が議論されることになっています。

RCE-Bulletinリンク：  
<https://www.rcenetwork.org/portal/first-rce-global-webinar-focuses-action-through-learning>



## 昨年度に引き続き、「未来につなぐふるさとプロジェクト」を実施します！

2021年度は下記のテーマ(仮題)でオンサイトイベント、セミナー&ワークショップを実施予定です。

### ①谷戸の生きもの調査(オンサイトイベント・千葉県) 7月11日(日)

昆虫など生き物の捕獲・観察と、1眼レフカメラを用いた写真教室

### ②「コーヒーから持続可能な暮らしを考える」 9月中旬

ゲスト講師：1.市橋 秀夫様(埼玉大学教授)  
2.三本木 一夫様(日本植物燃料株式会社・取締役栽培技術部部长、国際協力機構JICAコーヒー専門家)

### ③「安全な食と未来につながる地域づくり」 10月31日(日)

ゲスト講師：1.鮫田 晋様(千葉県いすみ市農林課主査)  
2.鈴木 大輔様(NHKテレビ・ラジオ体操の体操指導者・埼玉県坂戸市の社会福祉法人にじのいえ むぎのこ保育園 理事長)

### ④「地球にやさしいパンを食べる～小麦と生物多様性～」 日程、講師調整中

\*新型コロナウィルスの状況次第で、①以外の開催方法はオンラインまたは、対面(+オンラインの併用)とします。日時や詳細はウェブサイトにて公開していきますので、是非ご参加ください。

おまちしています



## 2021年度 ESD-J 通常総会のご案内

6月19日(土)

- ◆ ESD-J通常総会 13:00-15:00
- ◆ 車座トーク 15:00-17:00

■ タイトル：  
**気候変動の危機に挑むために**(仮題)

■ 講師：平田 仁子様  
気候ネットワーク  
国際ディレクター  
(オンライン開催予定)

### ◆編集後記

新型コロナ感染予防対策に明け暮れた令和2年度が終わり、新しい年度が始まりました。物理的な集会在困難となりオンライン会議システムの導入が飛躍的に普及した一年でした。今年のESD-J総会は、6月19日(土)を予定しております。変異型の感染状況等を踏まえて、オンライン開催若しくはハイブリッド開催の両方を模索中です。会員の皆様には後日、改めてご案内申し上げます。



LINEアカウント開設しました!

### 特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 201 T:03-5834-2061 F:03-5834-2062

会員募集中：正会員(10,000円)、準会員(3,000円) 詳しくはWEBサイトをご覧ください

